

建築職人工房



きたおか こうむてん

北岡工務店 ニュース

暑中お見舞い申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
今回は、これから暑さが厳しくなりますので、少しでも過ごし易くするための方法についてお話致します。

* 断熱で暑さを防ごう *

『断熱材』というと温かさを逃さないために使用する物だと、イメージする方が多いと思いますが、それ以外に**熱によって空気が温められないようにする**のも、断熱材の大切な仕事なのです。

* 夏の暑さはどうやって防ぐの？ *

暑さ、熱気はどこから入ってくるのでしょうか？

壁・天井・床・内部で発生している熱などです。その中でも壁と天井からの熱が殆どなのです。

壁から入り込む熱のうち、**大半は窓**から入ってきます。

それを防ぐ為には、**簾（すだれ）が一番**です。リフォームをする予定がある方は、サッシのガラスを**ペアガラスにする**と良いでしょう。ペアガラスにする場合、冬場の結露を考えて、

内部面の材料に樹脂を用いたものを採用すれば、さらに効果絶大です。そうすると、夏の暑さと冬の寒さを解消する対策になります。

その他、内部に遮光カーテンをかけるよりもいいのですが、窓外に簾（すだれ）をかける方が効果は大です。



天井からの熱、これが厄介です。特に最上階の天井・下屋などの屋根の下にある天井は屋根面の熱が直接入り込む為、特別暑くなります。

外部の気温が28℃ぐらいの時、きっと屋根裏部分の温度は40～50℃ぐらいには上がっているでしょう。断熱方法や屋根の材料の種類によって差はありますが、日中はもっと温度が上がる可能性はあります。その場合、その直下の部屋が暑くならない訳がありません。おそらく天井の温度は40℃前後になっているでしょう。

こうなると**屋根裏への断熱工事**が必要になってきます。
安価でできるのは、『グラスウール』という断熱材を屋根
面に20cmくらい引き詰めてしまう工事です。
詳しい事をお聞きになりたい方は、お気軽にお電話下さい。



* 断熱は冬だけではない！ *

断熱というと、冬の為のイメージがあるでしょう。確かに冬の寒さから温かさをキープすることは大切です。一昔前はそれでも良かったのです。

木造住宅は夏涼しいことを第一に造られてきました。風通しを良くして全ての部屋に風が流れる。また窓を閉めているときでも、建物には適度の隙間があり隙間風が流れる。日本特有の高温多湿の夏に対応した木造住宅です。その代わり冬は寒いです。

今の住宅は冷暖房があるのを良い事に、夏冬どちらにも向かない中途半端な気密をもたせるようになってきました。実はこの**中途半端な気密**が、**結露などの様々な問題をおこしています**。

そのような住宅の現状から考えて、**断熱工事をする際は、夏の遮熱をよく考えた方が暮らし易い住宅になる**と思います。

どうしても気密を必要とするのならしっかりと取り、その対策をしっかりと設計して良い住宅にする。必要としないなら、昔ながらの住宅を造る。意図しないうちに、勝手に取られてしまっている「**中途半端な気密**」こそ、**建物の寿命を縮めている悪い性能**なのです。

実際、国の基準でも夏場の事は考慮に入っていないのが現状です。断熱のみにかかわらず、**建築法の基準通りに建てられる住宅が完璧とは言えません**。

* 現地の特徴をよく調べる *

建築をする際には、その**場所の特徴を良く知っておく必要**があります。そんな意味でも地元の工務店が頼りになるでしょう。

年間の平均気温・平均雨量・台風の影響・風向きなどたくさんの情報を元に設計しなければなりません。自然の状況以外でも、**交通量・近くの工場**などの影響等もあります。

断熱も部位によってその使用や厚みが変わってくるはずですが、経験からわかっていることは意外に多いものです。

地域の事をよく知っている工務店(大工)を探して下さい。家造りは大工がメインです。

